学校の教育目標　**自律　共生　創造**

浅間山

せんげんやま

令和４年度　No.３
可児市立東可児中学校
令和４年６月１日発行

かかわりから生まれる「笑顔」

教務主任　桑下　正之

新型コロナウイルス感染症が流行り始め、約２年がたちました。未だにその衰えを見せていません。

この影響を受け、生徒の学ぶ機会、仲間と関わる機会が減り、生徒が笑顔する日も以前と比べ減ってしまったように感じます。

しかし、少しずつ状況も変化し、限られた環境下で自分たちの生活様式を構築し、ウイルスと共に生きるという形が習慣化し始めているのも事実です。

私たち教員そして生徒は、この感染症によって、多くのことを考えさせられました。

たとえば、何気ない学校での日常。朝起きて、登校し、仲間と話し、授業を受けたり、掃除をしたり、また部活動に参加したり、このような日常は決して当たり前ではないことに多くの人が気付かされました。３ヶ月にわたる休校、きっと忘れられることの無い記憶でしょう。みんなと会ったり学習したりできず、人と直接かかわる機会や時間がほとんどありませんでした。

かかわりというのは、人にとって大変貴重な時間だと感じます。

以前、自宅からリモートで授業をすることがありました。何かあったときに、すぐに対処ができ、便利な社会になったと感じられた反面、授業を終えたあと、虚しさを覚えました。それは、やはり、生徒との直接的なかかわりが全くないということ。画面を通して話すものの、物足りなく、寂しさを感じました。

本来であれば、教壇に立ち、発問をし、生徒とのやりとりで、生徒と教師の空気感もありながら学習が深まっていきます。授業以外にも廊下ですれ違う際に挨拶をかわすことで、生徒から元気をもらいます。

かかわりは多くの「笑顔」を生み出します。

先日は、１年生の校外研修がありました。仲間と共に活動し、「笑顔」で楽しむ姿がありました。活動内容だけではなく、仲間と過ごした時間が重要だと改めて感じさせられました。

体育大会の練習も始まり、本番に向けて、各学級で真剣に取り組む姿が見られます。３年生の学年練習では、大縄の跳んだ記録に喜ぶ多くの生徒の姿がありました。仲間と一緒になって頑張って取り組んでいるからこそ、自然と「笑顔」がこぼれるのだと思います。

コロナ禍ではありますが、生徒は、自分たちで創造し、新たな活動を仕組んで頑張っています。このような活動を通して、生徒一人一人が、学校教育目標「自律・共生・創造」をもとに成長し続けてくれることを期待しています。

そして、これからも笑顔があふれる学校になるよう教育活動をすすめてまいります。